

様式（第5条関係）

会議録

会議の名称	平成25年度第1回行田市史編さん委員会	
開催日時	平成25年11月20日（水） 開会：14時00分　閉会：15時30分	
開催場所	行田市郷土博物館　会議室	
出席者（委員） 氏名	岸田昌久　香川宏行　大友務　小島孝夫　田代脩	
欠席者（委員） 氏名	清水孝雄　松村幸夫　田村均　根岸茂夫	
事務局	文化財保護課長 市史編さん担当主幹 市史編さん担当嘱託	中島洋一 石塚聖子 久保康顕
会議内容	別紙会議録のとおり	
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・議事内容資料 ・資料1 ・市史刊行計画表 	
その他必要項		

発言者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
小島委員 岸田委員長 大友委員	<p>*市民憲章唱和</p> <p>1. 開会</p> <p>開会あいさつ 中島文化財保護課長</p> <p>2. 議事</p> <p>岸田昌久委員長が議事を進行。</p> <p>事務局からの報告・説明は配布した委員会資料(別紙参照)に基づいて行った。</p> <p>(1)市史編さん事業の経過報告について</p> <p>事務局より、民俗部会・事務局それぞれの活動状況を報告。</p> <p>特に異議無く了承された。</p> <p>(2)『行田の民俗』の刊行について</p> <p>事務局より、内容・体裁・構成および今後の作業計画について説明を行った。</p> <p>その後、民俗部会長の小島委員が補足説を行い、質疑応答に入った。内容は以下のとおり。</p> <p>本書は、行田の民俗の概要を平易に1冊にまとめるもので、小学校などでの補助教材としての利用も狙っている。写真・図版を多用し、文字も大きくする。また民俗事象1つを見開きページに収めて解説し、見やすく理解しやすいものとする。これを読んで興味をもつてもらい、内容の詳細な既刊の資料集を見てほしいと思っている。</p> <p>行田の生活文化の特徴を盛り込みたく、11章を設けた。章の名称がまだ仮題のものもあるが、このような方向で作業している。適切な写真選定、図版作成に努めるつもりだ。執筆委員による校正は、3校までの予定。</p> <p>また、既刊の民俗資料集2冊と本書を合わせた3冊を収納するものとして、箱の製作ができるないか事務局に打診している。箱の背に『行田の民俗』と入れたいがいかがか。</p> <p>題名についてはこれまでの計画通りに『行田の民俗』とするが、本書の内容に即した、わかりやすい副題を加えたいと考えている。ただ、具体的な副題については民俗部会でも検討中であるので、ここでは副題をつけてよいか、お諮りしたい。</p> <p>まず、構成について何かあるか。</p> <p>他地域の民俗関係の書との違いが現れるのが、9章と11章と思う。</p>

	内容を説明してほしい。
小島委員	9章「街道と水運」について、やはりかつて水運の存在は大きく、行田の河岸や通船に注目される。既刊の資料集で取り上げており、その内容を十分に生かしたい。また行田は水とのつき合いが大変深い地域である。利根川と荒川に挟まれていて、例えば、利根川方面の地域では赤水が出て洗濯に困るといった話があり、同じ水でも地域によりありがたみが違う。こうしたことを取り上げるのが 11 章で、行田の特徴を示すものとして特論的に設けることにした。
大友委員	副題をつけるポイントに、9 章と 11 章がなると感じる。
岸田委員長	昔、帆立柱の舟や水害のことを聞かされたし、吹き井戸から水が流れていたのを見ていた。古墳と川の関係もある。この地域は本当に昔から水との関係の深い地域だと思う。
岸田委員長	次に、セット売、箱をつけることについて話し合いたい。 3 冊を収納する箱を作るということだが、3冊セットにせずバラ売りもするのか。
田代委員	既刊の資料集を購入している人で、新たに本書を買う人(今回まとめて3冊をそろえるわけではない人)には、箱をどうするのか。
中島課長	箱は、3 冊同時購入時の「特典」として考えている。バラ売りはもちろんする。
小島委員	セットで買ってもらいたいと思っている。箱は 100 個を考えており、あくまでも特典として付けたいと考えている。
香川委員	販売についてだが、市史が置いてある家は少ないのではないか。そもそも、一般市民へきちんと市史の存在がアピールされていない。作っていることだけに満足しているのではないか。どうしてアピールしないのか。
中島課長	宣伝はしているが、足りないところがあろうかと思う。また、宣伝とともに、販売方法にも課題があるのが事実だ。身近に、より手にとってもらう方法に、一般書店で売る方法がある。しかし、書店の利益確保(マージン)のための卸値の設定の可否、方法にいろいろと課題がある。熊谷市史では実際に書店で市史を売っており、現在、事務局でその方法を調べている。書店マージンは1割という。市からすると、書店へ赤字販売となる。 なお、来年度に全国的な日本史研究団体である地方史研究協議会の大会が、熊谷市を会場に開催される。そこにブースを設け、販売

田代委員	<p>することを考えている。</p> <p>地方史研究協議会の大会で販売るのは可能なので、良い機会と思う。</p> <p>ただ、私の担当した『資料編 古代中世』も、写真を盛り込み、資料1点ごとに解説を施すなどの工夫をしたが、それがすぐ一般市民に受け入れられて売れ行きにつながるわけではない。こうした書籍の販売には難しい点もあると思う。</p>
岸田委員長	<p>昔の学校の校長室には必ず『行田市譚』が置いてあった。しかし、そこに書かれているのは正式な歴史ではない。正式(学問的また客観性の高いこと)なものを作ろうとして、今回の行田市史は刊行が進んできた。また、周囲を見渡すと年中行事がどんどん忘れられてゆく。市史を見れば行田のことが網羅されている、ここに何が載っている、といったことをアピールしないといけない。背表紙だけを見ただけでは、内容はわからない。ここに何が出ている、とアピールの必要があるだろう。</p>
香川委員	<p>箱の制作費については、当初予算がないのならば、補正予算がある。100個ならばそう高額ではないのではないか。</p>
中島課長	補正予算、差金ほか、最適な方法で対処したい。
岸田委員長	箱の製作について以上のように取計らうことでよろしいか。
各委員	よろしい。
岸田委員長	副題について、意見はいかがか。
中島課長	『行田の民俗』との題名だけでは堅い感じがするので、副題で和らげたい。
小島委員	拙速に副題を付けることはできないので、編集の過程で執筆委員と良いものを探りながら、まとめていきたい。
香川委員	11章の「水とくらし」は、行田を語るのに欠かせない要素なので使いたいと思うが。
小島委員	その通りと思う。ただ、河川流域の自治体がよく使うものでもあるかと思う。この点を踏まえて良いものを考えたい。
岸田委員長	専門家に任せるのがよいのではないか。民俗部会にて内容をわかりやすく伝える副題を付けることを承認しますか。

	各委員	承認する。
		(3)今後の市史編さん計画について 事務局より、考古部会の活動状況と計画、平成27年度刊行予定の『新しい行田の歴史(仮称)』(市史の総まとめ、普及版)編さんへの各部会の活動状況について説明をおこない、質疑応答に入った。
	岸田委員長	考古部会の刊行計画についての質疑をしたいと思う。
	中島課長	これまでの編さん体制、また予定していた考古部会長に就任を断られるなどの影響で、部会の発足が遅れている。 まずは事務局で基本的な内容枠を作り、刊行作業を進めていこうと考えている。各部門の執筆委員を固めてまずは執筆してもらい、その後で執筆者のなかから代表として部会長になってもらうという手段も考えている。
	大友委員	著名で、膨大な研究のある稻荷山の鉄剣について、行田市の公式見解を載せなければならず、それは大変な作業だ。
	中島課長	例えば部会長について、年齢的・学問的に適任者がなかなかいないという現状がある。
	田代委員	行田の発掘にかかわった人のなかから、時代別に責任者を選んでいくという方法があると思う。
	岸田委員長	難しいことは理解した。しかしいつまでも刊行事業を伸ばすことはできないので、次回の編さん会議に対案を出してもらうことによろしいでしょうか。
	各委員	了承する。
	岸田委員長	そのほか、事務局からあるか。 市史編さん委員の異動について報告があり、了承された。
	中島課長	5.閉会(あいさつ 中島課長)